

九州厚生局長 殿

開設者 国立大学法人佐賀大学
学長 佛淵 孝夫

佐賀大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	71.18人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	277人	87人	346.6人	看護補助者	24人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	13人	3人	15.4人	理学療法士	10人	臨床検査技師	25人
薬剤師	27人	0人	27人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	15人	1人	15.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	512人	14人	521.2人	臨床工学技士	6人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	16人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯科技工士	1人	事務職員	97人
管理栄養士	5人	0人	5人	診療放射線技師	24人	その他の職員	21人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	480人	11.2人	491.2人
1日当たり平均外来患者数	751.3人	50.5人	801.8人
1日当たり平均調剤数	666.5 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯	5人
顎顔面補綴治療	3人
超音波骨折治療法	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	22人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	オルダミンによる血管腫の硬化療法(歯科口腔外科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 顎口腔領域の血管腫に対して、オルダミンを注入(保険適応外使用)して、腫瘍の縮小もしくは消失を図る。 (高度医療申請中)			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	49人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	37人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	55人	・原発性胆汁性肝硬変	14人
・全身性エリテマトーデス	181人	・重症急性膵炎	9人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	122人
・再生不良性貧血	25人	・混合性結合組織病	26人
・サルコイドーシス	38人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	11人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	128人	・網膜色素変性症	8人
・特発性血小板減少性紫斑病	49人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	21人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	104人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	18人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	11人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	33人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	39人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	2人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	75人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7人
・後縦靭帯骨化症	10人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	111人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	37人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	9人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	2人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

計 1,286人

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 実物大立体モデルによる手術計画	・
・ 乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に3回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 45 例 / 部検率 15.10%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
伊万里市黒川町における老化に関する長期縦断疫学研究	山田 茂人	精神神経科	650,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
尿管上皮の増殖、構造・機能分化に与える脂肪組織の影響の解析および再生機構の解明	魚住 二郎	泌尿器科	910,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
子宮頸癌発癌過程とエピジェネティクスの変化:癌化予測および治療への応用	岩坂 剛	産科婦人科	910,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
有明海における細菌感染防止のための抗体検査法確立	荒木 和邦	手術部	1,040,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
摂食行動に関連する中枢神経系の小腸粘膜のアポトーシス・増殖に及ぼす影響	藤本 一真	消化器内科	1,170,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
大腸癌発生に対する各種脂質の影響及びその修飾因子に関する検討	岩切 龍一	光学医療診療部	1,430,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
アレルギー疾患の病態形成に関与する新規エフェクター分子の機能解析	出原 賢治	検査部	1,430,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌による院内肺炎の診断と抗菌薬治療開始閾値に関する研究	青木 洋介	感染制御部	390,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
感染による乳児喘息発症のメカニズム:病原微生物に対する免疫反応不良との関連	在津 正文	小児科	1,040,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
分子イメージングによるプロテオミクス解析の消化器癌個別化治療への応用	宮崎 耕治	病院長(一般・消化器外科)	910,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
膵癌のジエムシタピン効果を増強させるMMKY-01の基礎的研究	北島 吉彦	一般・消化器外科	910,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
喉頭癌由来癌幹細胞の生存・増殖・分化・遊走における間質細胞の役割とその制御機構	戸田 修二	病理部	1,430,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
網膜血管リモデリングにおける酵素的硝子体融解法の効果に関する研究	平田 憲	眼科	1,560,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
薬剤溶出性ステント後の再内皮化誘導療法に関する研究	野出 孝一	循環器内科	3,770,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
白血病の生存に対する骨髄関連細胞の関与	木村 晋也	血液内科	1,820,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
TLR4シグナルを利用した気管支喘息発症の予防的治療戦略の構築	太田 昭一郎	検査部	1,950,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
ω3脂肪酸代謝物の小児喘息に対する能動的消炎機構の解明	浜崎 雄平	小児科	1,950,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
扁平上皮癌の癌幹細胞の生存・増殖・分化における放射線被曝間質細胞の役割と制御機構	蒲地 紀之	放射線科	2,080,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
変形性関節症患者の手術前後のQOLとアクティビティに関する研究	馬渡 正明	整形外科	2,600,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
siRNAによるCaspase抑制を用いた新たな緑内障治療薬の開発	沖波 聡	眼科	2,470,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
Adipocytokineによる皮膚有棘細胞癌の分化誘導療法	井上 卓也	皮膚科	780,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
骨髄幹細胞(前駆脂肪細胞)の前立腺癌への影響:シグナル伝達の網羅的解析	佐藤 勇司	泌尿器科	1,170,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
扁桃に存在するヘリコバクター・ピロリの培養可能性の検討とIgA腎症発症との関連	草野 謙一郎	耳鼻咽喉科	1,040,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
MRI-ASL法を応用した血管内信号強調灌流画像における実用的有用性の評価	西原 正志	放射線科	1,690,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
胆嚢癌における浸潤様式:脱分化のメカニズムと予後との関係	甲斐 敬太	一般・消化器外科	1,560,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
網膜色素上皮からの神経網膜細胞の再生	岩切 亮	眼科	2,470,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金

小計
39,130,000

医療安全に関わるコミュニケーションスキルに関する研究～患者ハラスメントに焦点をあてて～	江村 正	卒後臨床研修センター	30,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
アトピー性皮膚炎のかゆみの解明と治療の標準化に関する研究	浜崎 雄平	小児科	2,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
スモンに関する調査研究(佐賀県在住スモン患者の実態調査)	雪竹 基弘	神経内科	700,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
進行頭頸部癌に対する漢方治療の有用性評価	井之口 昭	耳鼻咽喉科	600,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	長澤 浩平	膠原病・リウマチ内科	1,500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	(馬渡 正明)(佛淵 孝夫(引退))	整形外科	1,200,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
認知症の実態把握に向けた総合的研究	山田 茂人	精神科	10,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)
日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者において積極的脂質低下・降圧療法の妥当性を問うランダム化臨床試験および観察研究	野出 孝一	循環器内科	4,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金(分担)

小計
20,030,000

合計
59,160,000

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Rheumatology 48:1045-1049, 2009	Combination of TNF-RII, CYP1A1 and GSTM1 polymorphisms and the risk of Japanese SLE: findings from KYSS study.	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科
Lupus 18, 630-638, 2009	Cigarette smoking, N-acetyltransferase 2 polymorphisms and systemic lupus erythematosus in a Japanese population.	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科
J Rheumatol 36: 2195-2203, 2009	Cigarette smoking, STAT4 and TNFRSF1B Polymorphisms, and Systemic Lupus Erythematosus in a Japanese Population.	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol 19:173-179, 2009	Effect of disease activity and corticosteroids on serum levels of soluble endothelial cell protein C receptor in patients with systemic lupus erythematosus.	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科
Pharma Medica 27: 86-92, 2009	リウマチ・膠原病に合併した気道感染症に対するメシル酸ガレノキサシン水和物garenoxacinの有用性の検討	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科
Mod Rheumatol 19:57-63, 2009	Cyclosporin A treatment for Japanese patients with adult-onset Still's disease.	長澤 浩平	膠原病・リウマチ内科
臨床と研究 86: 492-495, 2009	ペットの飼育と全身性エリテマトーデス発症のリスク	多田 芳史	膠原病・リウマチ内科
Rheumatology 49:662-670, 2010	Autoantibody-producing RP105-negative B cells, from patients with systemic lupus erythematosus showed more preferential expression of BCMA compared with BAFF-R than normal subjects.	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科
日本呼吸器学会雑誌 47: 11: 991-995, 2009	フッ化水素ガス吸入によると推定された急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) の1例	川浦 太	呼吸器内科
J Cancer Res Clin Oncol 136:465-473, 2010	Mina53, a novel c-Myc target gene, is frequently expressed in lung cancers and exerts oncogenic property in NIH/3T3 cells.	小宮 一利	呼吸器内科
Lung Cancer. 2009 Nov13. [Epub ahead of print]	Expression of Mina53, a novel c-Myc target gene, is a favorable prognostic marker in early stage lung cancer.	小宮 一利	呼吸器内科
J Ultrasound Med; 28:253-258, 2009	Sonographic Findings of Physiologic Left Brachiocephalic Vein Compression in a Case Initially Misdiagnosed as a Left Internal Jugular Vein Thrombus.	薬師寺 祐介	神経内科
Ann Oncol 20 (12): 2013-2017, 2009	Retrospective and prospective studies of hepatitis B virus reactivation in malignant lymphoma with occult HBV carrier.	福島 伯泰	血液・腫瘍内科
J Cardiol 54, 368-374, 2009	Eicosapentaenoic acid increases cytochrome P-450 2J2 gene expression and epoxyeicosatrienoic acid production via peroxisome proliferator-activated receptor gamma in endothelial cells.	Dahai Wang	循環器内科
小計	14件		

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Atherosclerosis Thromb 16 (5) : 553-559, 2009	Association between High Molecular Weight Adiponectin Levels and Metabolic Parameters.	藤松 大輔	循環器内科
Hypertension Res 32 (9) : 727-728, 2009	Benefits and risks of combination therapy in hypertension.	野出 孝一	循環器内科
Cardiovasc Diabetol 8:23, 2009	Postprandial hyperglycemia as an etiological factor in vascular failure.	野出 孝一	循環器内科
J Am Coll Cardiol 53 (17) : 1568, 2009	Ebstein Anomaly by Cardiac Magnetic Resonance Imaging.	中村 郁子	循環器内科
J Interv Cardiol 22 (2) : 128-134, 2009	Benefits and Limitations of Cypher Stent-Based Bifurcation Approaches: In Vitro Evaluation Using Micro-Focus CT scan.	挽地 裕	循環器内科
J Cardiol 53 (2) : 232-239, 2009	Estimated glomerular filtration rate as a predictor of secondary outcomes in Japanese patients with coronary artery disease.	松尾 恵太	循環器内科
Circ J 73: 615-621, April 2009	Molecular Basis of Restenosis and Novel Issues of Drug-Eluting Stents.	井上 晃男	循環器内科
Hypertens Res 33 (3) : 192-193, 2010	Medical agents acting on the renin-angiotensin-aldosterone axis for the treatment of heart failure.	河野 宏明	循環器内科
Atherosclerosis 2010 [Epub ahead of print]	Sulfatides are associated with neointimal thickening after vascular injury.	井上 晃男	循環器内科
Am J Med Sci. ; 339 (2) : 152-6, 2010	Effect of exercise therapy on monocyte and neutrophil counts in overweight women.	道下 竜馬	循環器内科
Clin Exp Hypertens. 32 (2) : 121-8, 2010	Anti-Inflammatory Properties of Azelnidipine, a Dihydropyridine-Based Calcium Channel Blocker.	薦田 洋	循環器内科
ICUとCCU 33 (10) : 769-774, 2009	済生会熊本病院での急性大動脈解離内科治療	兒玉 和久	循環器内科
透析会誌 42 (10) : 791-796, 2009	連日透析後1回の心嚢穿刺で劇的な軽快を得た、尿毒症性心外膜炎による心タンポナーデの1例	山下 祐佳里	循環器内科
Int Urol Nephrol 41: 179-183, 2009	Successful steroid treatment in a patient with membranoproliferative glomerulonephritis associated with hepatitis C virus.	佐内 透	腎臓内科
小計	14件		

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Gastroenterol Hepatol 24: 633-638, 2009	Comparison of endoscopic findings with symptom assessment systems (FSSG and QUEST) for gastroesophageal reflux disease in Japanese centres.	壇上 晶子	消化器内科
Liver Int 29: 213-220, 2009	Hepatitis C virus infection enhances insulin resistance induced by visceral fat accumulation.	藤本 一眞	消化器内科
日本未病システム学会雑誌 14: 288-289, 2009	内臓肥満の抽出に対する臥位ウエスト周囲径測定の意義	藤本 一眞	消化器内科
J Gastroenterol 44:261-270, 2009	Comparison of the effects of omeprazole and famotidine in treatment of upper abdominal symptoms in patients with reflux esophagitis.	藤本 一眞	消化器内科
J Gastroenterol 44: 912-918, 2009	Low-dose aspirin is a prominent cause of bleeding ulcers in patients who underwent emergency endoscopy.	中山 昌之	消化器内科
Nature Med. 15: 701-706, 2009	Sustained in vitro intestinal epithelial culture within a Wnt-dependent stem cell niche.	大谷 顕史	消化器内科
Dig Endosc, 21, 20-23, 2009	Endoscopic hemostasis with metallic hemoclips for iatrogenic Mallory-Weiss tear caused Endoscopic examination.	下田 良	消化器内科
J Gastroenterol 44:1026-1035, 2009	Long-term ingestion of reduced glutathione suppressed an accelerating effect of beef tallow diet on colon carcinogenesis in rats.	白石 良介	消化器内科
Cell Res: 1269-1278, 2009	Downregulation of cyclooxygenase-1 is involved in gastric mucosal apoptosis via death signaling in portal hypertensive rats.	藤本 一眞	消化器内科
J . Clin. Biochem. Nutr. 46, 229-233, 2010	Brief Questioning by Nursing Staffs before Endoscopic Examination May Always Pick Up Clinical Symptoms of Endoscopic Reflux Esophagitis.	高島 利	消化器内科
J Gastroenterol 45:30-36, 2010	Risk factors for complications of endoscopic submucosal dissection in gastric tumors: analysis of 478 lesions.	萬年 孝太郎	消化器内科
J . Clin. Biochem. Nutr. 45, 82-85, 2009	Increased Lipid Absorption and Transport in the Small Intestine of Zucker Obese Rats.	安西 慶三	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Int J Oncol 35: 1441-1447, 2009	Modulation of the transforming growth factor- β 1-induced Smad phosphorylation by the extracellular matrix receptor β 1-integrin.	浜島 弘史	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Oncology Reports 22: 599-604, 2009	Inhibition of matrix metalloproteinase expression by menatetrenone, a vitamin K2 analogue.	井手 康史	肝臓・糖尿病・内分泌内科
小計	14件		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Liver Int 29 (6) : 871-877, 2009	Eradication of hepatitis C virus by interferon improves whole-body insulin resistance and hyperinsulinaemia in patients with chronic hepatitis C.	河 口 康 典	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Jpn Pharmacol Ther (薬理と治療) 37 (suppl) : 147-149, 2009	NAFLDに対する食事運動療法の指標としての多裂筋脂肪化の評価	北 島 陽 一 郎	肝臓・糖尿病・内分泌内科
日本消化器病学会雑誌; 106: 201-207, 2009	食堂静脈瘤硬化療法施工後に非典型的部位に発症し内視鏡的に治療した非代償性肝硬変合併特発性食道破裂の1例	大 座 紀 子	肝臓・糖尿病・内分泌内科
J Gastroenterology 44:1203-1208, 2009	A pilot trial of body weight reduction for nonalcoholic fatty liver disease with a home-based lifestyle modification intervention delivered in collaboration with interdisciplinary medical staff.	大 座 紀 子	肝臓・糖尿病・内分泌内科
第94回日本消化器病学会 総会記念誌 99-102, 2009	高齢者肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術の妥当性—長期予後と安全性の観点から	高 橋 宏 和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
J Gastroenterol 45:218-224, 2010	Age-related fat desposition in multifidus muscle could be a marker for nonalcoholic fatty liver disease.	北 島 陽 一 郎	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Dig Dis Sci 55: 183-189, 2010	Whole-Body Insulin Sensitivity Index Is a Highly Specific Predictive Marker for Virological Response to Peginterferon Plus Ribavirin Therapy in Chronic Hepatitis C Patients with Genotype 1b and High Viral Load.	水 田 敏 彦	肝臓・糖尿病・内分泌内科
日本高齢消化器病学会誌 12 : 104-108, 2010	高齢者におけるHCV陽性肝細胞癌の特徴	高 橋 宏 和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Liver Int 30 (4) : 538-545, 2010	Evaluation of acoustic radiation force impulse elastography for fibrosis staging of chronic liver disease: a pilot study.	高 橋 宏 和	肝臓・糖尿病・内分泌内科
J Cutan Pathol: 36: 943-951: 2009	Fibrofolliculoma/trichodiscoma and fibrous papule (perifollicular fibroma/angiofibroma): a reevaluation of the histopathological and immunohistochemical features.	三 砂 範 幸	皮膚科
Br. J. Dermatol. 160:1128-1130, 2009	Nestin expression in apocrine mixed tumours of the skin.	三 砂 範 幸	皮膚科
Actas Dermosifiliogr Supl. 2: 49-54, 2009	Toward Better Management of Merkel Cell Carcinoma Using a Consensus Staging System, New Diagnostic Codes and a Recently Discovered Virus.	古 場 慎 一	皮膚科
Clin Exp Dermatol 34, 892-894, 2009	Fibrofolliculoma in a patient with tuberous sclerosis complex.	三 砂 範 幸	皮膚科
Eur J Dermatol 19: 522-3, 2009	Deep soft tissue leiomyoma of the thigh.	上 村 春 子	皮膚科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
小計	14件		
西日本皮膚科 71:412-415, 2009	副作用により塩酸ミノサイクリンを中止せざるをえなかったツツガムシ病の1例	鶴田 紀子	皮膚科
西日本皮膚科 71:421-424, 2009	摂取された魚骨の穿通により生じた肛門周囲膿瘍の1例	佐田 明日香	皮膚科
日本皮膚病理組織学会誌 25:25-28, 2009	右大腿に生じたsubcutaneous leiomyosarcomaの1例	井上 卓矢	皮膚科
Am J Dermatopathol. 32 (1) 35- 43, 2010	A Revaluation of Trichofolliculoma: The Histopathological and Immunohistochemical Features.	三砂 範幸	皮膚科
Br J Dermatol 161, 1239-1247, 2009	An organotypic culture system of Merkel cells using isolated epidermal sheets.	永瀬 浩太郎	皮膚科
日本腹部救急医学会雑誌 29 (5) : 723~727, 2009	敗血症における臓器障害指標としてのプロカルシトニン値測定の意義	平木 将紹	一般・消化器外科
日本臨床科学学会雑誌 29 (5) : 723-727, 2009	心膜開窓・大網充填術が有効であった食道癌化学放射線治療後難治性心嚢液貯留の1例	平木 将紹	一般・消化器外科
Clin J Gastroenterol 2: 331-337, 2009	A long-time survivor of alpha-fetoprotein-producing gastric cancer successfully treated by fluoropyrimidine-based chemotherapy: a case study.	平木 将紹	一般・消化器外科
ONCOLOGY REPORTS 23: 191-197, 2010	CpG island methylation of BNIP3 predicts resistance against S-1/CPT-11 combined therapy in colorectal cancer patients.	平木 将紹	一般・消化器外科
Ann Surg Oncol 17: 1177-1186, 2010	Aberrant Gene Methylation in the Lymph Nodes Provides a Possible Marker for Diagnosing Micrometastasis in Gastric Cancer.	平木 将紹	一般・消化器外科
ONCOLOGY REPORTS 22: 693-699, 2009	Hypoxia-inducible factor-1 α expression predicts the response to 5-fluorouracil-based adjuvant chemotherapy in advanced gastric cancer.	中村 淳	一般・消化器外科
Virchows Arch 454: 181-188, 2009	Active neovascularization and possible vascular-centric development of gastric and periscapular elastofibromas.	甲斐 敬太	一般・消化器外科
Genome Research 19, 8: 1462-1470, 2009	Genome-wide screen of promoter methylation identifies novel markers in melanoma.	古賀 靖大	一般・消化器外科
Hepato-Gastroenterology 56: 768-772, 2009	Efficacy of Major Hepatectomy for Large Hepatocellular Carcinoma.	三好 篤	一般・消化器外科
小計	14件		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastric Cancer 12: 164-169, 2009	Intraabdominal Roux-en-Y reconstruction with a novel stapling technique after laparoscopic distal gastrectomy.	能城 浩和	一般・消化器外科
日本腹部救急医学会雑誌 30 (3) : 473~476, 2010	大腸穿孔で発症し、急激な転帰をたどった Clostridium perfringens感染症の一部検例	甲斐 敬太	一般・消化器外科
Clin J Gastroenterol 3: 40-44, 2010	A hepatocellular neoplasm accompanied with massive histiocyte infiltration.	甲斐 敬太	一般・消化器外科
World J Gastroenterol 16 (3) : 330-338, 2010	Aberrant gene methylation in the peritoneal fluid is a risk factor predicting peritoneal recurrence in gastric cancer.	平木 紹	一般・消化器外科
International Journal of Oncology 36: 341- 349, 2010	Tranilast strongly sensitizes pancreatic cancer cells to gemcitabine via decreasing protein expression of ribonucleotide reductase 1.	光野 由美	一般・消化器外科
胸部外科 62 (6) : 450-453, 2009	上行大動脈より起始した右冠状動脈起始異常	片山 雄二	心臓血管外科
胸部外科 62 (12) : 1028-1031, 2009	討論 : Stanford A型急性大動脈解離の基部病変に対する外科治療	森田 茂樹	心臓血管外科
CIRCULATION Up-to-Date 5:47-52, 2010	IABPの合併症とその対策	森田 茂樹	心臓血管外科
Neurosurgical Review 32:457-464, 2009	Trans-cerebellomedullary fissure approach with special reference to lateral route.	河島 雅倒	脳神経外科
AJNR Am J Neroradiol. 30 (9) :1709- 16, 2009	Unilateral hemispheric proliferation of Ivy sign on flair image in moyamoya disease correlates highly with ipsilateral hemispheric decrease of cerebrovascular reserve.	河島 雅倒	脳神経外科
Skull Base An Interdisciplinary Approach. 20 (2) :83-92, 2010	Transcondylar Fossa (Supracondylar Transjugular Tubercle) Approach: Anatomic Basis for the Approach, Surgical Procedures, and Surgical Experience.	松島 俊夫	脳神経外科
J Orthop Sci. 14:437-442, 2009	Serum concentrations of interleukin-6 in patients following unilateral versus bilateral total knee arthroplasty.	釘崎 創	整形外科
Journal of Orthopaedics. 6 (2) :e14, 2 009.	The Characteristics Of Gait Pattern In Patients With Hip Osteoarthritis.	田中 里紀	整形外科
Journal of Biomedical Materials Reserch Part. B:386-389, 2009	In Vivo Antibacterial and Silver-Releasing Properties of Novel Thermal Sprayed Silver-Containing Hydroxyapatite Coating.	嶋崎 貴文	整形外科
小計	14件		

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn. J. Endourol. ESWL. 22: 244-249, 2009	腎盂尿管腫瘍に対する体腔鏡下腎摘除術一用手補助 下法から体腔鏡単独法への移行	藤山 千里	泌尿器科
西日泌尿 71: 255-258, 2009	当院における腹圧性尿失禁, 膀胱瘤, 子宮脱に対す る外科手術の変遷	中尾 孝子	泌尿器科
Clin Exp Nephrol. 13:424-429, 2009	Microwave tissue coagulator induces renal apoptotic damage to preserved normal renal tissue following partial nephrectomy.	南里 正晴	泌尿器科
Int Urol Nephrol. 41:869-875, 2009	The effects of neoadjuvant chemotherapy and chemo-radiation therapy on MRI staging in invasive bladder cancer: comparative study based on the pathological examination of whole layer bladder wall.	西村 和重	泌尿器科
西日泌尿 71: 24-328, 2009	珊瑚状結石の占有腎杯数と治療難易度の相関につい て検討	西村 和重	泌尿器科
西日泌尿 71: 00-604, 2009	副腎原発性リンパ腫: 6症例の報告と本邦報告例の 文献的検討	田中 恵	泌尿器科
AJR. 192(6):1601-7, 2009	Uterine Artery Embolization Along With the Administration of Methotrexate for Cervical Ectopic Pregnancy: Technical and Clinical Outcomes.	入江 裕之	放射線科
AJNR Am J Neuroradiol. 30(4):669- 73, 2009	Kyphoplasty and Vertebroplasty Produce the Same Degree of Height Restoration.	野口 智幸	放射線科
Carcinogenesis. 30(10):1 729-34, 2009	Interraction between cytochrome P450 1A2 genetic polymorphism and cigarette smoking on the risk of hepatocellular carcinoma in a Japanese population.	今泉 猛	放射線科
Current Medical Imaging Reviews. 5(3):180-189, 2009	An Illustrative Review of Solid Pancreatic Masses: Differential Diagnostic Features of CT and MRI Findings.	入江 裕之	放射線科
Imaging Med. 1(1):97-102, 2009	Imaging autoimmune pancreatitis.	入江 裕之	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol. 32(6):1284-7, 2009	Rhabdomyolysis Developing After Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma.	入江 裕之	放射線科
J Magn Reson Imaging. 30(1):112-20, 2009	MR Prediction of Postnatal Outcomes in Left- Sided Congenital Diaphragmatic Hernia Using Right Lung Signal Intensity: Comparison With That Using Right Lung Volume.	入江 裕之	放射線科
J Magn Reson Imaging. 31(2):373-82, 2009	Detection of Hepatocellular Carcinoma (HCC) Using Super Paramagnetic Iron Oxide (SPIO)- Enhanced MRI: Added Value of Diffusion- Weighted Imaging (DWI).	入江 裕之	放射線科
小計	14件		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
IVR会誌 24(3): 276-279, 2009	バルーン閉塞下シースからのエタノール注入による同側穿刺経皮経肝門脈塞栓術の新方法: 2例報告	野尻 淳一	放射線科
J Neuroimaging. 2009Jul 29. [Epub ahead of print]	Volumetric Asymmetry and Differential Aging Effect of the Human Caudate Nucleus in Normal Individuals: A Prospective MR Imaging Study.	野口 智幸	放射線科
AJNR Am J Neuroradiol. 30(7):1388-93, 2009	Simultaneous Measurement of Arterial Transit Time, Arterial Blood Volume, and Cerebral Blood Flow Using Arterial Spin-Labeling in Patients with Alzheimer Disease.	野口 智幸	放射線科
Hum Brain Mapp. 30(10):3142-50, 2009	Age-Related Microstructural Changes in Subcortical White Matter During Postadolescent Periods in Men Revealed by Diffusion-Weighted MR Imaging.	野口 智幸	放射線科
J Thorac Imaging 24(1):62-65, 2009	Magnetic Resonance Imaging Features of Spontaneously Regressed Thymoma: Report of 2 Cases.	中園 貴彦	放射線科
リハビリテーション医学. 46(11):690-696, 2009	女性がリハビリテーション科医になるための課題	浅見 豊子	リハビリテーション部
Journal of the Neurological Sciences 290:80-85, 2010	α Pix enhances mutant huntingtin aggregation.	江里口 誠	リハビリテーション部
Clinical Neuropharmacology. 32(6):344-345, 2009	Effective Treatment With Low-Dose Fluvoxamine for Obsessive-Compulsive Disorder After Neurosurgery: A Case Report.	國武 裕	精神神経科
九州神経精神医学 55(3~4):145-150, 2009	女性的な仕草が見られた無性愛の男性摂食障害の1例	原口 祥典	精神神経科
九州神経精神医学 55(3~4):195, 2009	研修医のための精神科診療の実際	山田 茂人	精神神経科
九州神経精神医学 55(2):83-89, 2009	一般健康調査票 (GHQ-28) により評価した就労女性の性周期に伴う健康感に及ぼす手掌部皮膚電気刺激の影響	松永 みな子	精神神経科
日本未熟児新生児学会雑誌 21(2):37-42, 2009	生後2週間に急激な溶血性黄疸をきたした超低出生体重児の4例	江頭 智子	小児科
佐賀母性衛生学会雑誌 12(1) 42-44, 2009	食事や育児を心配しすぎる強迫性障害の母親	藤田 一郎	小児科
Clinical Neuropharmacology. 28(6):445-452, 2009	5-lipoxygenase pathway promotes cell proliferation in human glioma cell lines.	石井 清久	小児科
小計	14件		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Pediatr Neurol 41(2)114-8, 2009	Febrile Seizures: Characterization of Double-Stranded RNE-Induced Gene Expression.	佐々木 和也	小児科
J Asthma 46(9)967-968, 2009	Does Chlamydia pneumoniae Infection Trigger to Development of Asthma in Wheezy Infants?	在津 正文	小児科
ペインクリニック 30(8): 1032-1040, 2009	帯状疱疹後神経痛 (PHN) の系統的治療	平川 奈緒美	麻酔科・蘇生科
日本臨床麻酔学会誌 30(2): 247-252, 2010	佐賀大学医学部附属病院における気管内手術時の麻酔管理の検討	松本 浩一	麻酔科・蘇生科
日本臨床麻酔学会誌 30(3): 480-484, 2010	先天性無痛無汗症患者のプロポフォール単独による麻酔経験一術中の血中カテコラミン値の変化一	上村 裕平	麻酔科・蘇生科
Gynecologic Oncology 113: 57-62, 2009	Feasibility study of neoadjuvant chemotherapy followed by interval debulking surgery for stage III/IV ovarian, tubal, and peritoneal cancers: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0206.	岩坂 剛	産科婦人科
日本産婦人科学会 61(4): 106-114, 2009	E. 婦人科疾患の診断・治療・管理、8. 腫瘍と類腫瘍 3) 子宮頸癌 (手術療法、放射線治療)	岩坂 剛	産科婦人科
日本臨床細胞学会九州連 合会雑誌 40:37-40, 2009	HPVと子宮頸部病変一長期経過観察の結果からみたその取り扱い一	横山 正俊	産科婦人科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 247: 1089- 1094, 2009	Changes in choriocapillaris fenestration of rat eyes after intravitreal bevacizumab injection.	下村 由紀子	眼科
J Clin Invest 119: 1997-2008, 2009	Heparan sulfate deficiency leads to Peters anomaly in mice by disturbing neural crest TGF- β 2 signaling.	岩尾 圭一郎	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 247: 1095- 1101, 2009	Restricted post-trabeculectomy bleb formation by conjunctival scarring.	岩尾 圭一郎	眼科
Eye EYE Res 90:81-88, 2010	Heparan sulfate deficiency in periocular mesenchyme causes microphthalmia and ciliary body dysgenesis.	岩尾 圭一郎	眼科
Cancer Sci 100(1):132-137, 2009	Identification of the H2-Kd-restricted cytotoxic T lymphocyte epitopes of a tumor-associated antigen, SPARC, which can stimulate antitumor immunity without causing autoimmune disease in mice.	門司 幹男	耳鼻咽喉科
Acta Oto-Laryngologica 129(10):1115-1120, 2009	A zinc-containing compound, Polaprezinc, is effective for patients with taste disorders: randomized, double-blind, placebo-controlled, multi-center study.	井之口 昭	耳鼻咽喉科
小計	14件		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Acta Oto-Laryngologica 129(8):886-892, 2009	Histological changes of the pharynx and larynx in rats with chronic acid reflux esophagitis.	島津 倫太郎	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会会報 112(9):648~655, 2009	頭頸部癌における放射線性唾液腺障害と味覚障害に対するCepharanthin効果の検討	島津 倫太郎	耳鼻咽喉科
Ann Allergy Asthma Immunol 102(33): 223- 232, 2009	Amelioration of experimental allergic rhinitis with suppression of topical immune responses by lack of IL-27/WSX-1 signaling.	島津 倫太郎	耳鼻咽喉科
J Gastroenterol 45:406-412, 2010	Cocoid Helicobacter pylori exists in the palatine tonsils of patients with IgA nephropathy.	草野 謙一郎	耳鼻咽喉科
Annals of Otolaryngology & Rhinology 119(1): 22- 26, 2010	Relationship Between Squamous Cell Carcinoma Antigen and the Clinical Severity of Allergic Rhinitis Caused by Dermatophagoides farinae and Japanese Cedar Pollen.	鈴木 久美子	耳鼻咽喉科
日本口腔科学会雑誌 58 (2): 50-55, 2009	現代日本人の下顎骨副オトガイ孔の発現頻度に関する研究	重松 正仁	歯科口腔外科
Histochem Cell Biol 132: 423-33, 2009	TRPV2 expression in rat oral mucosa.	下平 大治	歯科口腔外科
日本口蓋裂学会雑誌 34:45-51, 2009	佐賀大学医学部附属病院歯科口腔外科における口唇裂口蓋裂患者の臨床統計的検討	山下 佳雄	歯科口腔外科
Int J Oral Maxillofac. Surg 38:285- 288, 2009	Oral rehabilitation using preshaped Epitec fixation systems after extensive maxillary tumor surgery.	山下 佳雄	歯科口腔外科
J Med Microbiol 59:245-250, 2010	Moraxella catarrhalis bacteraemia associated with prosthetic vascular graft infection.	佐野 直人	歯科口腔外科
The Journal of Biological Chemistry; 284(36):24289-24296, 2009	Distinct Structural Requirements for Interleukin-4 (IL-4) and IL-13 Binding to the Shared IL-13 Receptor Facilitate Cellular Tuning of Cytokine Responsiveness.	伊藤 栄近	救命救急センター
Current Drug Therapy. 4:139-143, 2009	Effective Use of Drugs to Counter Chemical Terrorism.	奥村 徹	救命救急センター
日炭脱研誌 1(5): 55-59, 2009	各種細菌の代謝および発育能に対する炭酸脱水素酵素阻害剤の影響	瀧 健治	救命救急センター
J Nippon Med Sch 77:13-20, 2010	A New Look at Criteria for Damage Control Surgery.	阪本 雄一郎	救命救急センター
小計	14件		

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Yonsei Med J 51(3):354-539, 2010	Effectiveness of Human Atrial Natriuretic Peptide (HANP) Supplementation in Pulmonary Edema Patients Using the Pulse Contour Cardiac Output (PiCCO) System.	阪本 雄一郎	救命救急センター
Scandinavian Journal of Immunology 71:447-451, 2010	IL-8 in cerebrospinal fluid from children with acute encephalopathy is higher than in that from children with febrile seizure.	阪本 雄一郎	救命救急センター
Indian J Crit Care Med 14(1) 35-39, 2010	Effectiveness of early start of direct hemoperfusion with polymyxin B-immobilized fiber columns judging from stabilization in circulatory dynamics in surgical treatment patients.	阪本 雄一郎	救命救急センター
日本機械学会論文集 76(761):44-51, 2010	並進と回転の衝撃をうける頭部の応答と形状個体差の影響	阪本 雄一郎	救命救急センター
JIM. 20(3):188-190, 2010	若者の腹痛と尿管管遺残膿瘍	松永 諭	総合診療部
Pathol Int 59(6):386-75, 2009	Non-skin mesenchymal cell types support epidermal regeneration in a mesenchymal stem cell or myofibroblast phenotype-independent manner.	青木 茂久	病理部
Organogenesis 5(2):50-56, 2009	Adipose tissue-organotypic culuture system as a promising model for studying adipose tissue biology and regeneration.	戸田 修二	病理部
診断病理 26(2):129-133, 2009	Wolffian adnexal tumorの1例	内橋 和芳	病理部
Life Style Medicine 3:373-377, 2009	Successful Lifestyle Modification—実践的なライフスタイル改善のノウハウ—	江本 晶子	薬剤部
YAKUGAKU ZASSHI 129(5): 537-548, 2009	依頼者による医療施設の治験実施体制の評価と問題点	萩森 奈央子	薬剤部
小計	10件		合計150件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入するこ

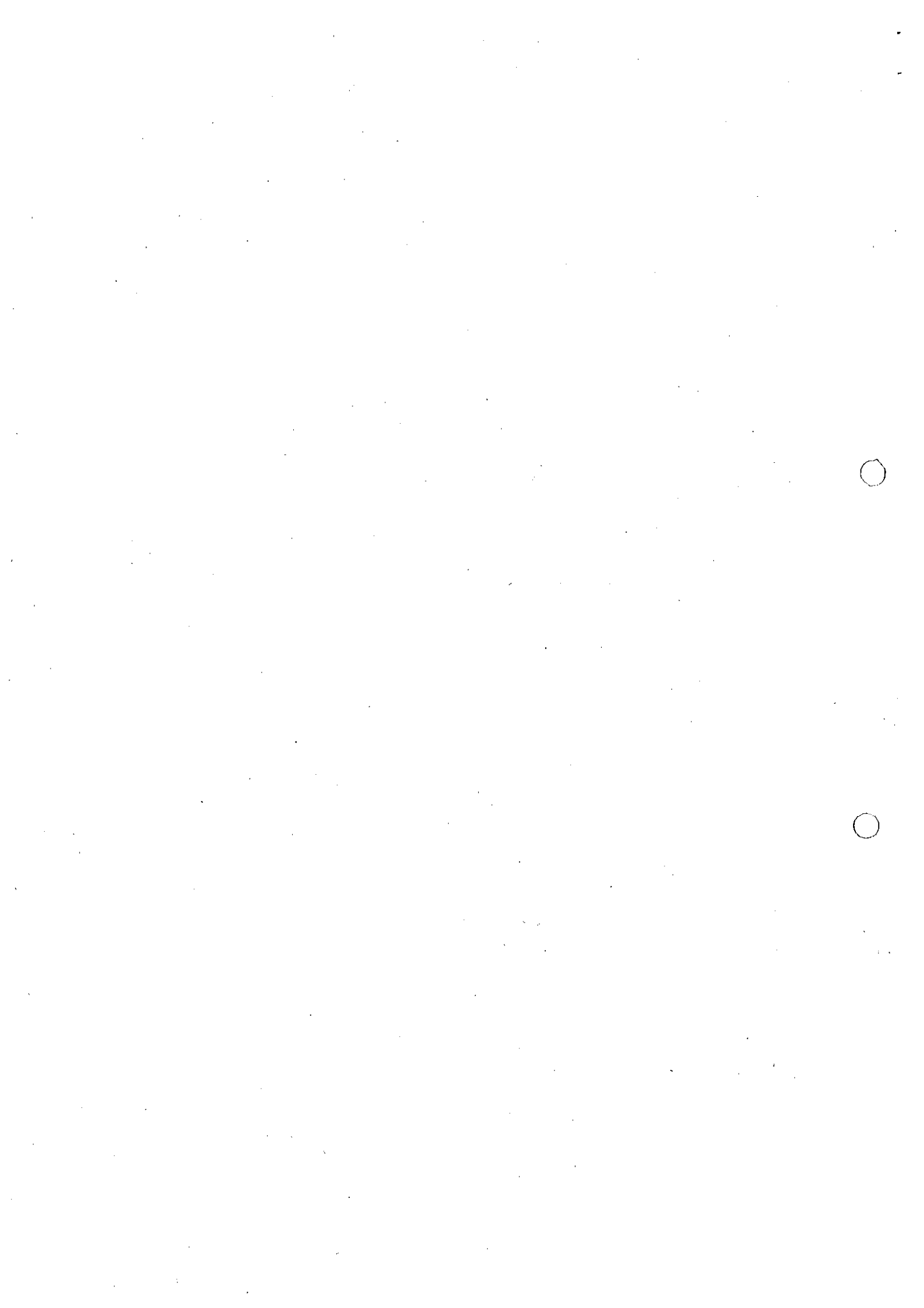


(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

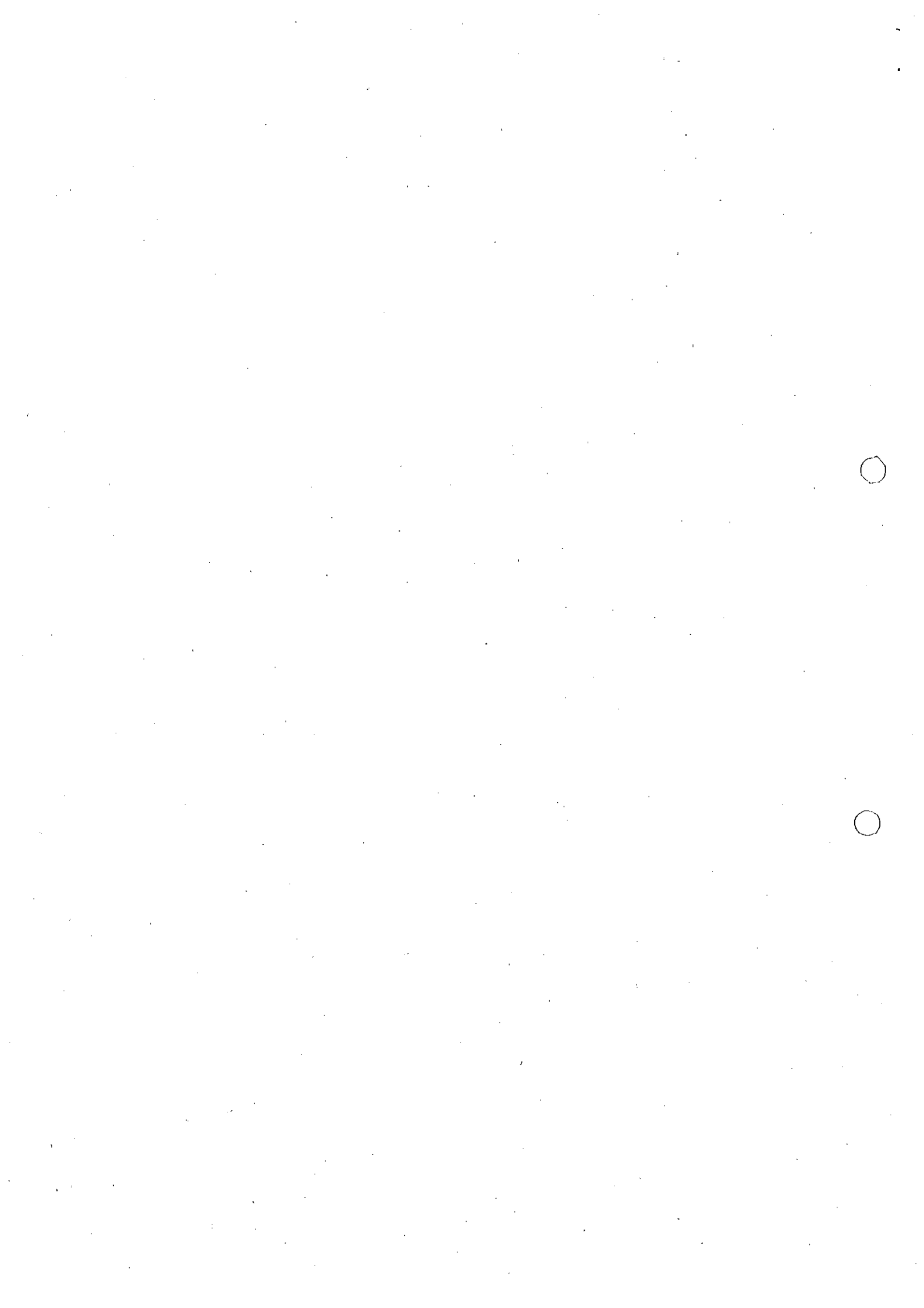
管理責任者氏名	病院長 宮崎 耕治		
管理担当者氏名	総務課長：最所 力男	患者サービス課長：樋口 正一	薬剤部長：藤戸 博
	看護部長：長谷川 正志	放射線部長：工藤 祥	診療記録センター：小泉 俊三

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 患者サービス課 薬剤部 看護部 放射線部 診療記録センター	診療記録は、診療記録センターにおいて、1患者1ファイルで集中管理している。 画像診断写真は、放射線部において、集中管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	患者サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	患者サービス課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	—	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	患者サービス課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の体制第一項各号及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者サービス課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者サービス課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者サービス課	



		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	経営管理課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	患者サービス課 感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬 剤 部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬 剤 部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬 剤 部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬 剤 部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医学部事務部長 阿部 文生
閲覧担当者氏名	患者サービス課長 樋口 正一
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室

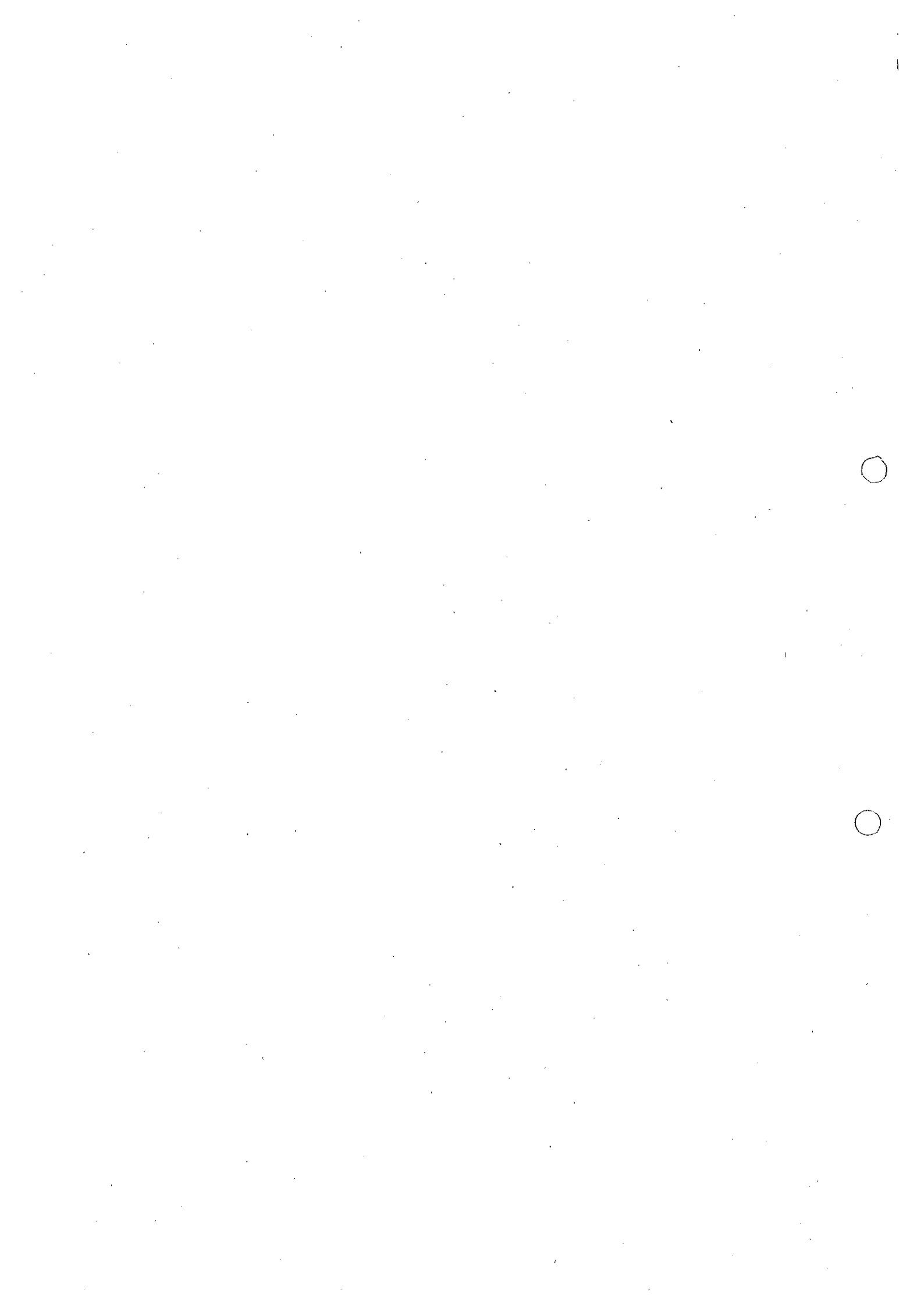
○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	71.2%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		8,893人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,135人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,236人
	D: 初診の患者の数		17,121人

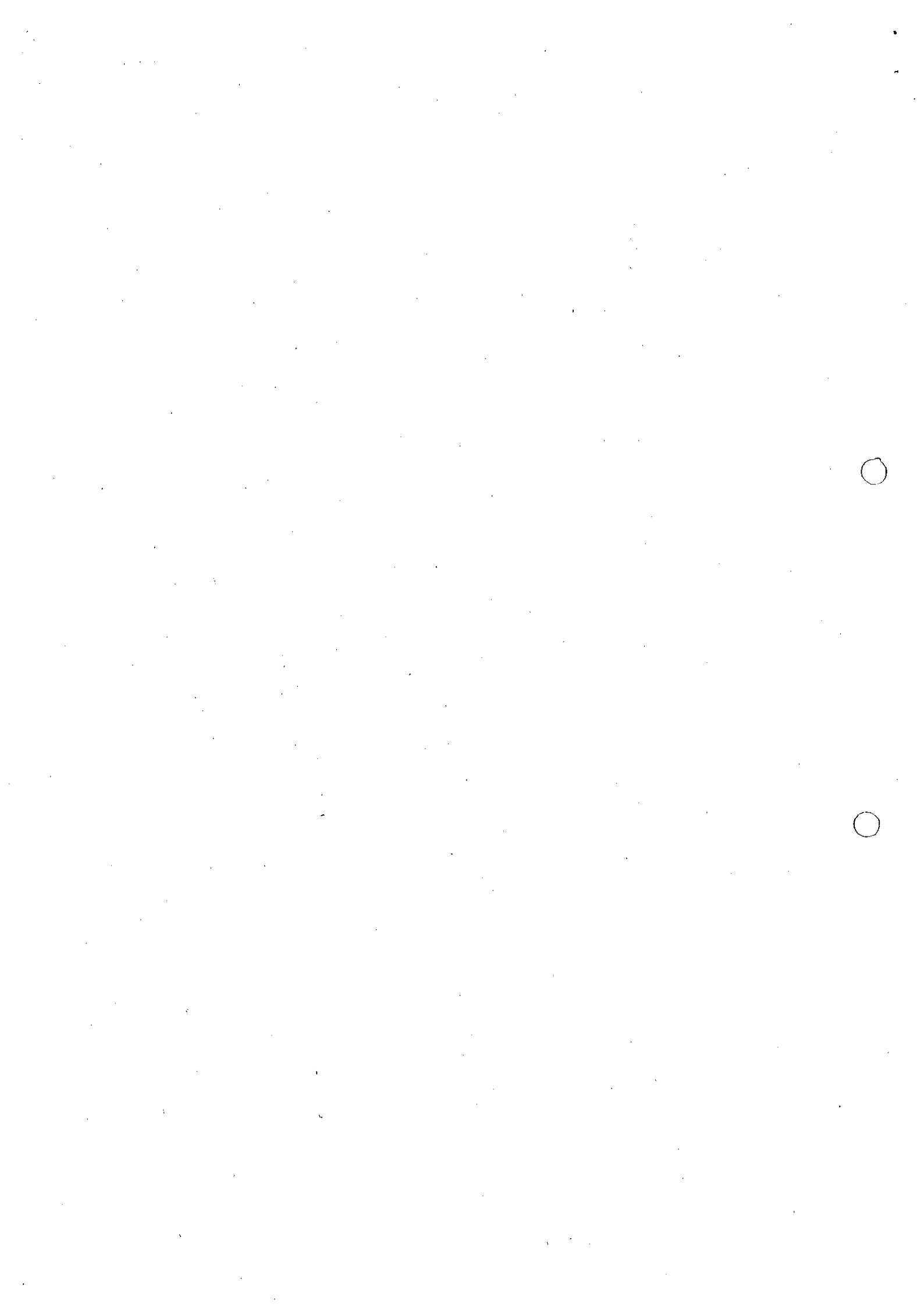
- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。



(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無																																																													
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第 1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方 第 2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第 3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 第 4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 第 5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 第 6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む） 第 7 患者からの相談への対応に関する基本方針 第 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理のための指針」添付</p>																																																														
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回																																																													
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。</p> <p>(1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。 (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。 (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。 (4) その他医療安全管理に関し必要な事項</p> <p>※「佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」、「医療安全管理委員会名簿」添付</p>																																																														
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 8 回																																																													
<p>・ 研修の主な内容：</p>																																																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 55%;">研修内容（テーマ）</th> <th style="width: 20%;">研修期間</th> <th style="width: 20%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「医療機関における接遇マナー、医療機関での言葉使い、医療機関での電話対応、患者満足のために出来ること（事例検討）」</td> <td>平成21年5月18日（1 時間）</td> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">1, 049名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>（本開催研修会の収録ビデオ上映）</td> <td>平成21年5月25日（1 時間）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>”</td> <td>平成21年5月26日（1 時間）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>”</td> <td>平成21年5月27日（1 時間）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>”</td> <td>平成21年5月29日（1 時間）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>”</td> <td>平成21年6月1日（1 時間）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「静脈血栓塞栓症予防について」－深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症－</td> <td>平成21年6月2日（0.5 時間）</td> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">985名</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>（本開催研修会の収録ビデオ上映）</td> <td>平成21年6月15日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>”</td> <td>平成21年6月16日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>”</td> <td>平成21年6月17日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>”</td> <td>平成21年6月18日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>”</td> <td>平成21年6月19日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>①「人工呼吸器のピットホール」 ②「検体ラベルに関連したインシデント報告」</td> <td>平成21年9月1日（0.5 時間）</td> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">1, 011名</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>（本開催研修会の収録ビデオ上映）</td> <td>平成21年9月14日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>”</td> <td>平成21年9月15日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>”</td> <td>平成21年9月16日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>”</td> <td>平成21年9月17日（0.5 時間）</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>”</td> <td>平成21年9月18日（0.5 時間）</td> </tr> </tbody> </table>			研修内容（テーマ）	研修期間	参加人数	1	「医療機関における接遇マナー、医療機関での言葉使い、医療機関での電話対応、患者満足のために出来ること（事例検討）」	平成21年5月18日（1 時間）	1, 049名	2	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成21年5月25日（1 時間）	3	”	平成21年5月26日（1 時間）	4	”	平成21年5月27日（1 時間）	5	”	平成21年5月29日（1 時間）	6	”	平成21年6月1日（1 時間）	7	「静脈血栓塞栓症予防について」－深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症－	平成21年6月2日（0.5 時間）	985名	8	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成21年6月15日（0.5 時間）	9	”	平成21年6月16日（0.5 時間）	10	”	平成21年6月17日（0.5 時間）	11	”	平成21年6月18日（0.5 時間）	12	”	平成21年6月19日（0.5 時間）	13	①「人工呼吸器のピットホール」 ②「検体ラベルに関連したインシデント報告」	平成21年9月1日（0.5 時間）	1, 011名	14	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成21年9月14日（0.5 時間）	15	”	平成21年9月15日（0.5 時間）	16	”	平成21年9月16日（0.5 時間）	17	”	平成21年9月17日（0.5 時間）	18	”	平成21年9月18日（0.5 時間）
	研修内容（テーマ）	研修期間	参加人数																																																											
1	「医療機関における接遇マナー、医療機関での言葉使い、医療機関での電話対応、患者満足のために出来ること（事例検討）」	平成21年5月18日（1 時間）	1, 049名																																																											
2	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成21年5月25日（1 時間）																																																												
3	”	平成21年5月26日（1 時間）																																																												
4	”	平成21年5月27日（1 時間）																																																												
5	”	平成21年5月29日（1 時間）																																																												
6	”	平成21年6月1日（1 時間）																																																												
7	「静脈血栓塞栓症予防について」－深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症－	平成21年6月2日（0.5 時間）	985名																																																											
8	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成21年6月15日（0.5 時間）																																																												
9	”	平成21年6月16日（0.5 時間）																																																												
10	”	平成21年6月17日（0.5 時間）																																																												
11	”	平成21年6月18日（0.5 時間）																																																												
12	”	平成21年6月19日（0.5 時間）																																																												
13	①「人工呼吸器のピットホール」 ②「検体ラベルに関連したインシデント報告」	平成21年9月1日（0.5 時間）	1, 011名																																																											
14	（本開催研修会の収録ビデオ上映）	平成21年9月14日（0.5 時間）																																																												
15	”	平成21年9月15日（0.5 時間）																																																												
16	”	平成21年9月16日（0.5 時間）																																																												
17	”	平成21年9月17日（0.5 時間）																																																												
18	”	平成21年9月18日（0.5 時間）																																																												



④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【問題点の把握方法】

インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。

【問題点の分析方法】

集まった事例は、GRMが影響度を分類のうえサマリ化する。
サマリは定例の医療安全管理室会議において分析を行う。

【改善策の検討方法】

- (1) 問題発生の記事に関連する部署とGRMで対応策の検討を行う。
- (2) サマリは、定例の医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。
- (3) 医療安全管理委員会において審議する。

【改善事例】

- 平成 21年 4月16日 Ai検査対応手順の作成について
- 平成 21年 4月16日 人工呼吸器回路内ウォーターtrapの取扱いに関する医療事故防止対策について
- 平成 21年 5月21日 セイフティマネジメントマニュアルの改訂について
- 平成 21年 5月21日 医療安全管理ポケットマニュアルの改訂について
- 平成 21年 5月21日 指示出し・指示受けの手順の作成について
- 平成 21年 6月16日 手術部安全確認表の作成について
- 平成 21年 8月20日 浴室（病棟）の給湯温度管理方法の改善策について
- 平成 21年12月14日 医療安全管理マニュアルシリンジポンプ・輸液ポンプの使用手順の追加について
- 平成 21年12月14日 病棟浴槽の安全（手すりの新設）について
- 平成 22年 1月21日 電子カルテカウンターサインを要する薬剤について
- 平成 22年 1月21日 病棟患者食堂窓開閉制限について
- 平成 22年 2月18日 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂について
- 平成 22年 3月18日 身体抑制についての同意書の作成について
- 平成 22年 3月18日 手術部安全確認表の変更について
- 平成 22年 4月20日 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂について
- 平成 22年 5月20日 気管カニューレ挿入患者の安全対策について
- 平成 22年 5月20日 医療安全管理マニュアルの作成について

【インシデント・アクシデント報告件数】

平成22年度	201件	(平成22年5月現在)	
(インシデント)	199件	(うち、医師の報告件数)	27件
(アクシデント)	2件	(うち、医師の報告件数)	0件
平成21年度	2,375件		
(インシデント)	2,366件	(うち、医師の報告件数)	158件
(アクシデント)	9件	(うち、医師の報告件数)	4件

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況

有 (1名) ・ 無

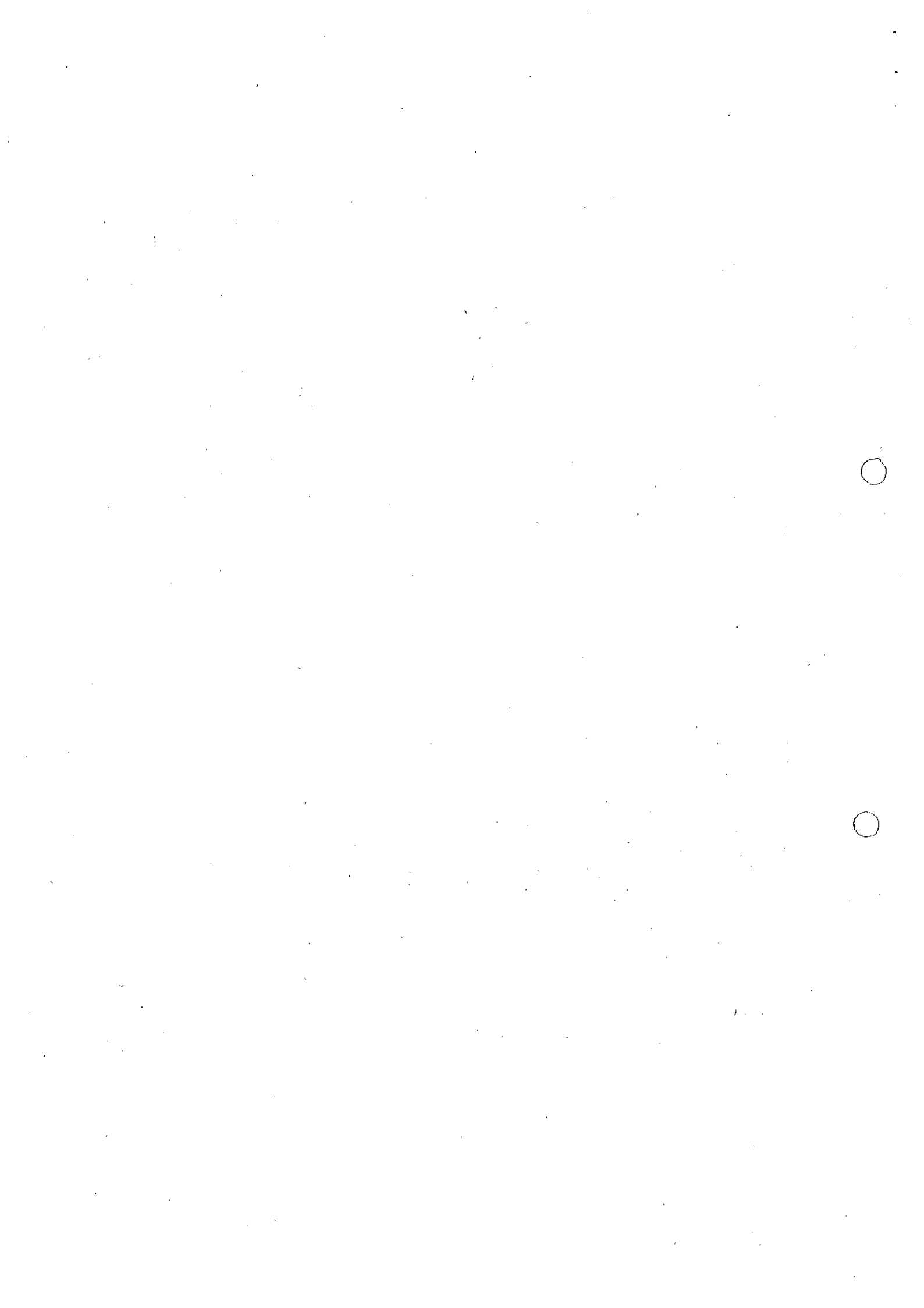
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況

有 (4名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況

有 ・ 無

- ・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (16) 名
 - ・ 活動の主な内容：
- (1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。
 - (2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
 - (3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
 - (4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに必要な指導を行うこと。
 - (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。
 - (6) その他医療安全対策の推進に関すること。



※「医療安全管理室メンバー表」、「佐賀大学医学部附属病院医療安全管理室内規」添付

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有・無



佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理のための指針

平成16年4月1日
制 定

第1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方

事故のない安全な医療を提供していくためには、医療従事者一人一人が危機意識を持って、日々の患者の診療に当たると同時に、医療に係る知識や技術を一定のレベル以上に保つことが不可欠である。

しかし、大学病院のように巨大で複雑なシステムの下で行なわれている医療においては、経験豊富な医療従事者であっても、うっかりミスや医療事故を起こすことがある。また些細なミスがいくつも重なり合うような、あるいはシステムに原因するような複合要因によって重大な事故が引き起こされる危険がある。

このため医療においても「人間はエラーを起こす」という前提に基づき、エラーを誘発しない環境や起こったエラーを吸収して事故を未然に防ぐ体制を構築していく。

第2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項

本院における医療安全管理に関する基本的な考え方を踏まえて、病院長は、医療に係る安全管理のための体制を確保するため、次の委員会等を設置する。

(医療安全管理委員会)

本院内の安全管理の体制の確保及び推進のために設けるもので、医療安全対策に関する重要事項等について審議し、方針を決定する機関である。

なお、同委員会は、院内感染対策委員会や医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者などの他の関連組織と連携を取り、効率的かつ効果的な医療安全対策を講じるものとする。

(医療安全管理室)

医療安全管理委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に本院内の安全管理を担う部門である。

(医療安全管理者)

医療安全管理室に所属し、同室の業務に関する企画立案及び評価、並びに職員の安全管理に関する意識の向上や指導等の業務を行うなど病院全体の安全管理を担当する者である。

(セイフティマネジャー)

所属する部署のインシデント・アクシデント情報を把握し、医療安全管理者への報告及び連絡調整を行う。また、当該安全対策の決定方針に基づく改善策等について所属職員に周知徹底を図るとともに、それらが確実に実施され、かつ安全対策として有効に機能しているか常に点検・評価するなど各部署単位での安全対

策を推進する者である。

(セイフティマネジャー連絡会議)

セイフティマネジャー及び医療安全管理室の正副室長で構成され、本院でのインシデント事例等及び安全対策の決定方針に基づく改善策などの情報を共有し、セイフティマネジャーに周知徹底を図る部会である。

第3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針

- ・ 病院長は、個々の職員の安全管理に対する意識の啓発、安全に業務を遂行するための技能、チーム医療の一員としての意識の向上を図るため、病院全体に共通する医療安全管理に関する内容についての研修を年2回以上定期的で開催する。
- ・ 病院長は、新規採用職員及び医員（研修医）に対し本院の安全管理に対する基本的な考え方、方針、事項を周知させるとともに、その遵守を徹底させる。

第4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- ・ 本院内で発生したインシデント等の報告は、まず、全職員を対象とした「インシデント・アクシデント速報システム（Web ページ）」を利用して行い、基本的に医療事故につながる可能性のある事例等を早期に広く収集し、これらインシデント事例等を活用した医療に係る安全の確保を図るものとする。
- ・ このために、医療安全管理室は、医療安全管理委員会への報告等、予め定められた報告体制に従い事例を収集、分析することにより安全管理に関する問題点を把握して、病院組織としての改善策の企画立案やその実施状況を評価するものとし、これら必要な情報を関係各部署へフィードバックしていく。
- ・ なお、インシデント事例等に対し主体的・積極的な報告は、各医療従事者がお互いに「事例に学ぶ」という姿勢を堅持するという認識と職場環境のものとで行われ、また、原因分析に際しては、「誰が」ではなく、「何が」「何故」起きたかに視点を置くものとする。

第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- ・ 医療事故等が医療側の過失によるか否かを問わず、患者に望ましくない事象が発生した場合は、本院内の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。
- ・ 事故発生後、可及的速やかに、事故の状況、現在実施している処置、予後等について患者本人、家族等に誠意をもって説明をする。
- ・ 重大な事故の発生時には、速やかに病院長へ報告する。
- ・ 事故の場合にあつての報告は、診療録等に基づき作成する。

・ その他医療事故等発生時の対応については、本院「医療安全管理マニュアル」の「医療事故等発生時における対応指針」に沿って対応する。

第6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む。）

本指針（本院ホームページ掲載）の内容を含め、医療従事者は患者との情報の共有に努めるとともに、患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

第7 患者からの相談への対応に関する基本方針

・ 医療行為等に関する患者等からの相談に対しては、担当者及びその責任者などを決め、誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を受けないよう適切な配慮を講じる。

・ これら相談は、速やかに病院長等へ報告し、また、本院の安全対策等の見直しに活用していくものとする。

第8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針

医療安全の推進のために、「医療安全管理マニュアル」を作成し、病院職員へ周知するとともに、その内容は講じた対策の効果や現場からの要請等に応じて、また第三者機関の評価、患者の参加等を通じて常に改訂・改善を図っていくものとする。

附 則

この指針は、平成14年12月19日から施行する。

附 則（平成15年10月1日改正）

この指針は、平成15年10月1日から施行する。

附 則（平成16年4月1日改正）

この指針は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成19年6月25日改正）

この指針は、平成19年6月25日から施行する。

附 則（平成20年3月21日改正）

この指針は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年6月1日改正）

この指針は、平成21年6月1日から施行する。



佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程

平成16年4月1日

制 定

(設置)

第1条 佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理の体制の確保及び推進のため、佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。
- (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。
- (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。
- (4) その他医療安全管理に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 医療安全管理室長
- (3) 医療安全管理室副室長（医療安全管理者）
- (4) 診療科の科長のうち若干人
- (5) 中央診療施設等の部長等のうち薬剤部長（医薬品安全管理責任者）及びMEセンター長（医療機器安全管理責任者）を含む若干人
- (6) 看護部長
- (7) 事務部長
- (8) その他必要の都度病院長が指名した者

2 前項第4号及び第5号に掲げる委員は、病院長が指名する。

3 第1項第4号及び第5号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残余の期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

2 委員会は、委員の過半数以上の出席をもって開き、その議決は、出席委員の過半数の同意による。

(代理出席)

第6条 第3条の委員がやむを得ない理由により委員会に出席できない場合は、あらかじめ委員長の了解を得た者を代理に出席させることができる。

2 前項の者は、第3条の委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴取することができる。

(他の委員会との連携)

第8条 委員会は、院内感染対策の推進に関することについては「佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会」において審議・策定させる分業体制をとる。但し、同委員会における重要な検討内容については、病院長へ報告することとする。

(事務)

第9条 委員会における資料及び議事録の作成並びに保存、その他庶務に関することは医療安全管理室において行う。

2 その他委員会に関する事務は、患者サービス課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年10月27日改正)

この規程は、平成17年10月27日から施行する。

附 則 (平成19年9月6日改正)

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

附 則 (平成20年3月21日改正)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

医療安全管理委員会

(22年 4月より) * は併任を示す

	22年度	備 考
委員長 病院長	宮 崎 耕 治	
医療安全管理室長	岩 坂 剛	
医療安全管理室副室長	荒 木 和 邦	
医療安全管理室副室長	山 田 み ゆ き	
各診療科の科長のうち若干人	魚 住 二 郎	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
	藤 本 一 真	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
	森 田 茂 樹	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
中央診療施設等の部長のうち薬剤部長(医薬品安全管理責任者)及びMEセンター長(医療機器安全管理者)を含む若干人	藤 戸 博	
	岩 坂 剛 *	
	工 藤 祥	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
看護部長	小 泉 俊 三	24年3月まで(病院長指名、任期2年)
事務部長	長 谷 川 正 志	
その他都度の病院長が指名した者	阿 部 文 生	
	—	
	12名	

再任を妨げない

9,

9,

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

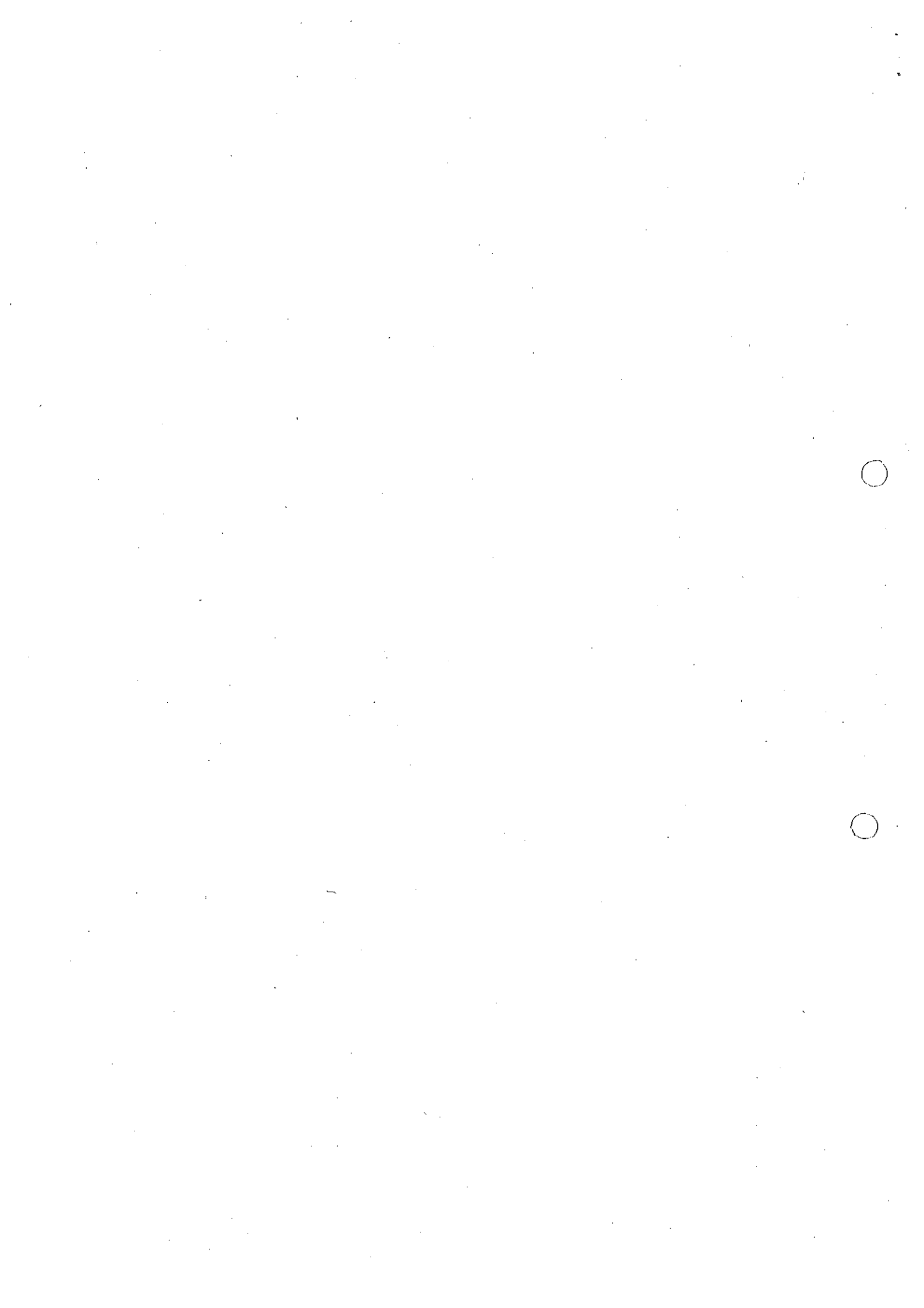
① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無																																																													
・ 指針の主な内容： 第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針 第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 ※「佐賀大学医学部附属病院における医療に係る院内感染対策のための指針」添付																																																														
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回																																																													
・ 活動の主な内容： 院内感染対策委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。 (1) 院内感染の予防に関すること。 (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。 (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。 (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。 (5) 感染制御部の運営に関すること。 (6) その他感染予防及び対策に関すること。 ※「佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会規程」、「院内感染対策委員会名簿」添付																																																														
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年18回																																																													
・ 研修の主な内容：																																																														
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>研修内容(テーマ)</th><th>研修期間</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>「新型インフルエンザについて」</td><td>平成21年6月2日(0.5時間)</td><td rowspan="6">985名</td></tr><tr><td>2</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成21年6月15日(0.5時間)</td></tr><tr><td>3</td><td>〃</td><td>平成21年6月16日(0.5時間)</td></tr><tr><td>4</td><td>〃</td><td>平成21年6月17日(0.5時間)</td></tr><tr><td>5</td><td>〃</td><td>平成21年6月18日(0.5時間)</td></tr><tr><td>6</td><td>〃</td><td>平成21年6月19日(0.5時間)</td></tr><tr><td>7</td><td>「新型インフルエンザ対策：実践編」－こんな時どうする？－</td><td>平成21年9月1日(0.5時間)</td><td rowspan="6">1,011名</td></tr><tr><td>8</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成21年9月14日(0.5時間)</td></tr><tr><td>9</td><td>〃</td><td>平成21年9月15日(0.5時間)</td></tr><tr><td>10</td><td>〃</td><td>平成21年9月16日(0.5時間)</td></tr><tr><td>11</td><td>〃</td><td>平成21年9月17日(0.5時間)</td></tr><tr><td>12</td><td>〃</td><td>平成21年9月18日(0.5時間)</td></tr><tr><td>13</td><td>「新型インフルエンザ対策」－最新情報と今冬の対策－</td><td>平成21年12月1日(0.5時間)</td><td rowspan="6">928名</td></tr><tr><td>14</td><td>(本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>平成21年12月14日(0.5時間)</td></tr><tr><td>15</td><td>〃</td><td>平成21年12月15日(0.5時間)</td></tr><tr><td>16</td><td>〃</td><td>平成21年12月16日(0.5時間)</td></tr><tr><td>17</td><td>〃</td><td>平成21年12月17日(0.5時間)</td></tr><tr><td>18</td><td>〃</td><td>平成21年12月18日(0.5時間)</td></tr></tbody></table>			研修内容(テーマ)	研修期間	参加人数	1	「新型インフルエンザについて」	平成21年6月2日(0.5時間)	985名	2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成21年6月15日(0.5時間)	3	〃	平成21年6月16日(0.5時間)	4	〃	平成21年6月17日(0.5時間)	5	〃	平成21年6月18日(0.5時間)	6	〃	平成21年6月19日(0.5時間)	7	「新型インフルエンザ対策：実践編」－こんな時どうする？－	平成21年9月1日(0.5時間)	1,011名	8	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成21年9月14日(0.5時間)	9	〃	平成21年9月15日(0.5時間)	10	〃	平成21年9月16日(0.5時間)	11	〃	平成21年9月17日(0.5時間)	12	〃	平成21年9月18日(0.5時間)	13	「新型インフルエンザ対策」－最新情報と今冬の対策－	平成21年12月1日(0.5時間)	928名	14	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成21年12月14日(0.5時間)	15	〃	平成21年12月15日(0.5時間)	16	〃	平成21年12月16日(0.5時間)	17	〃	平成21年12月17日(0.5時間)	18	〃	平成21年12月18日(0.5時間)
	研修内容(テーマ)	研修期間	参加人数																																																											
1	「新型インフルエンザについて」	平成21年6月2日(0.5時間)	985名																																																											
2	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成21年6月15日(0.5時間)																																																												
3	〃	平成21年6月16日(0.5時間)																																																												
4	〃	平成21年6月17日(0.5時間)																																																												
5	〃	平成21年6月18日(0.5時間)																																																												
6	〃	平成21年6月19日(0.5時間)																																																												
7	「新型インフルエンザ対策：実践編」－こんな時どうする？－	平成21年9月1日(0.5時間)	1,011名																																																											
8	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成21年9月14日(0.5時間)																																																												
9	〃	平成21年9月15日(0.5時間)																																																												
10	〃	平成21年9月16日(0.5時間)																																																												
11	〃	平成21年9月17日(0.5時間)																																																												
12	〃	平成21年9月18日(0.5時間)																																																												
13	「新型インフルエンザ対策」－最新情報と今冬の対策－	平成21年12月1日(0.5時間)	928名																																																											
14	(本開催研修会の収録ビデオ上映)	平成21年12月14日(0.5時間)																																																												
15	〃	平成21年12月15日(0.5時間)																																																												
16	〃	平成21年12月16日(0.5時間)																																																												
17	〃	平成21年12月17日(0.5時間)																																																												
18	〃	平成21年12月18日(0.5時間)																																																												
⑤ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況																																																														



- ・ 病院における発生状況の報告等の整備
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

(有 ・ 無)

情報を院内Web上で毎日更新し、院内に公開している。また、新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や確認を行っている。



佐賀大学医学部附属病院における医療に係る院内感染対策のための指針

(平成19年6月19日制定)

第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方

院内感染は患者が多量なる不利益を被るのみでなく、人的・経済的に医療財源を圧迫し、結果として医療の質そのものを著しく低下させる。このため、院内感染を未然に防ぐ手段を恒常的に院内で周知・遵守すると同時に、診療科横断的に発生する感染症に専門的診療を行うことが不可欠である。加えて、医療スタッフの職業感染曝露を防止することが必要である。

これらの目的のために、当院では専任スタッフで構成される感染制御部を感染対策の中核的機能として常置する。ここでは病原菌の院内疫学的解析に基づく医療関連感染の制御と防止に努める一方、専門医による感染症診療を全診療科に提供することにより、感染対策と感染症診療が常に相補的に機能する体制の維持・向上を可能とする院内感染対策を構築する。

第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項

(院内感染対策委員会)

- ・院内感染対策委員会は、本院における院内感染対策に関して必要なことを審議する。

(感染制御部)

- ・院内感染対策委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に本院内の感染対策を担う部門である。

(感染対策専任看護師長)

- ・感染制御部門の業務に関する企画立案および評価、病院内における職員の院内感染対策に関する意識の向上や指導の業務を行う者である。

第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針

(院内研修)

- ・病院長（管理者）は、個々の職員の院内感染対策に対する意識の啓発、安全に業務を遂行するための技能、チーム医療の一員としての意識の向上を図るため、病院全体に共通する院内感染防止に関する内容についての研修を年2回以上定期的に開催する。
- ・病院長は、新規採用職員及び医員（研修医）に対し本院の院内感染対策に対する基本的な考え方、方針、事項を周知させるとともに、その遵守を徹底させる。

第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針

- ・届出が必要な感染症が発生した場合は、感染制御部の指導・援助の下、主治医名で速やかに報告する。
- ・抗菌薬耐性菌を含む病原菌の分離状況については微生物検査室から感染制御部に定期的に報告を受け、サーベイランスを実施し、アウトブレイクに対応する。

第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染が発生した場合の対応は原則として次に定めるところによる。

- (1) 院内感染発生現場の医療従事者、あるいは微生物検査室からの報告に基づき、感染制御部スタッフが感染症発生状況の解析を迅速に行い、考えられる感染症の制御に必要な一次措置を直ちに講じる。
- (2) 前号の措置後、感染制御部長または副部長は、当該感染症の発生について病院長、診療科長、看護部長および事務部長にただちに報告する。
- (3) 病院長等は院内感染が発生した場合には、必要に応じて緊急の感染制御部会議を招集し、本院の院内感染に係る原因調査、分析、再発防止策を検討させる。
- (4) その他院内感染が発生した場合の対応の詳細については別に定める。

第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針の内容を含め、職員は患者との情報の共有（本院ホームページ掲載）に努めるとともに、患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じる。

第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針

院内感染対策の推進のために「院内感染対策マニュアル」を作成し、病院職員へ周知するとともに、その内容は講じた対策の効果や現場からの要請に応じて、また、第三者機関の評価などを通じて常に改定・改善を図ってゆくものとする。

附 則

この指針は、平成19年6月19日から施行する。

佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会規程

平成 16 年 9 月 24 日
制 定

(設置)

第 1 条 佐賀大学医学部附属病院における院内感染の予防及び対策のため、佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 院内感染の予防に関すること。
- (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。
- (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。
- (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。
- (5) 感染制御部の運営に関すること。
- (6) その他感染予防及び対策に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 感染制御部長
- (3) 感染制御部副部長
- (4) 検査部，手術部，材料部及び輸血部の各部長
- (5) 薬剤部長
- (6) 看護部長
- (7) 栄養管理委員会委員長
- (8) 歯科口腔外科の科長
- (9) 診療科長又は副診療科長のうち若干人
- (10) 事務部長
- (11) その他病院長が指名する者若干人

2 前項第 9 号及び第 11 号に掲げる委員は、病院企画室会議の議を経て、病院長が委嘱する。

(任期)

第 4 条 前条第 1 項第 9 号及び第 11 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残余の期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、感染制御部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行

する。

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

(代理出席)

第7条 第3条の委員がやむを得ない理由により委員会に出席できない場合は、あらかじめ委員長の了解を得た者を代理に出席させることができる。

2 前項の者は、第3条の委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、経営管理課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年9月24日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に委嘱される第3条第1項第9号及び第11号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

附 則 (平成17年4月14日改正)

この規程は、平成17年4月14日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則 (平成19年3月22日改正)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年9月6日改正)

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

院内感染対策委員会名簿

診療科等名		氏名	電話	備考
感染制御部長	委員長	青木洋介	3242	
病院長		宮崎耕治	3302	PHS2325 秘書室3305
感染制御部副部長		福岡麻美	3534	
感染制御部副部長		三原由起子	3960	感染対策担当看護師長
検査部長		出原賢治	3753	
手術部長		荒木和邦	3837	
材料部長		後藤昌昭	2329	
輸血部長		木村晋也	2353	
栄養管理委員会委員長		岩坂剛	2315	
診療科長または 副科長のうち 若干人	泌尿器科	魚住二郎	2333	
	呼吸器内科	林真一郎	2356	
	脳神経外科	松島俊夫	2330	
	膠原病・リウマチ内科	長澤浩平	2350	
	血液内科	(木村晋也)		
薬剤部長		藤戸博	3161	
看護部長		長谷川正志	3330	
事務部長		阿部文生	3310	
歯科口腔外科の科長		(後藤昌昭)		
病院長の指名する者若干人	病因病態科学	宮本弘呂志	2245	
計		17名		定足(9名)



医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有) 無								
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回								
・ 研修の主な内容：									
<table border="1"><thead><tr><th></th><th>研修内容 (テーマ)</th><th>研修期間</th><th>参加人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>「医薬品の安全使用について」 「検体提出と再検の問題点について」</td><td>平成21年11月17日 (1 時間)</td><td>988名</td></tr></tbody></table>			研修内容 (テーマ)	研修期間	参加人数	1	「医薬品の安全使用について」 「検体提出と再検の問題点について」	平成21年11月17日 (1 時間)	988名
	研修内容 (テーマ)	研修期間	参加人数						
1	「医薬品の安全使用について」 「検体提出と再検の問題点について」	平成21年11月17日 (1 時間)	988名						
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況									
・ 手順書の作成 ((有) 無)									
・ 業務の主な内容：									
以下の項目について、「できている」か「要改善」かのチェックを行う。									
(1) 医薬品保管証には必要最小限の薬剤である。									
(2) 医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品はない。									
(3) 麻薬、覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬は施錠できる場所で区別して保管している。									
(4) 医薬品の保管場所にきちんと表示がある。									
(5) 冷所保存の医薬品が整理整頓されている。									
(6) 緊急の場合以外は、口頭指示だけでなく、指示簿や処方せんで指示を受けいている。									
(7) 内服薬の準備の時には、薬剤を二人でチェックしている。									
(8) 注射薬調整では、2度以上の薬剤確認を行っている。									
(9) 点滴投与を開始した後は、点滴ルートから液漏れがないかの確認や、全身状態の確認をしている。									
(10) 新鮮凍結血漿は常に37℃で溶解し、3時間以内に使用している。									
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況									
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有) 無)									
・ その他の改善のための方策の主な内容：									
医薬品に係る添付文書等の収集方法として、DSUによる変更点の収集およびメーカーへの変更後の添付文書の送付を依頼している。									
また、得られた情報のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対して、小冊子「薬局からのお知らせ」を月に1回発行し、各病棟、各診療科へ配付し、その中にDSUも含めて周知している。									
その他にも、緊急に通知する必要がある場合は、随時、各病棟、各診療科へ配付している。									



医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 9 0 回
・ 研修の主な内容： 人工心肺装置および補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用エネルギー放射線治療装置、診療用放射線照射装置の安全使用のための研修を行っている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： (医療機器関係) 点検は機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるもの大きく分類すると、外観・機能・性能・電氣的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を行っている。 (放射線関係) 製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電氣的安全点検、機械的安全点検、予防的点検等、保守点検表を作成し行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 【収集方法】 (医療機器関係) ・ 第2回全国国立大学法人病院臨床工学技士協議会出席 (平成21年7月、北海道) ・ 平成21年度大学間相互チェック出席 (平成21年12月、鳥取大学) ・ 第85回医療機器学会大会出席 (平成21年5月、福岡) ・ 各製造メーカー等より情報が寄せられる。 ・ 医薬品医療機器等安全性情報 (厚生労働省ホームページ) 及び医療機器関連情報 (医薬品医療機器総合機構ホームページ) より情報収集を行っている。 (放射線関係) ・ 各製造業者より安全情報が提供される。 ・ 医薬品医療機器等安全性情報 (厚生労働省ホームページ) 及び医療機器関連情報 (医薬品医療機器総合機構ホームページ) より情報収集を行っている。 ・ 平成21年度に開催された学会・研究会および研修会等に参加し、医療機器の安全使用のための情報収集等を行っている。 【提供・周知方法】 (医療機器関係) ・ メーカーより提供された文書等を回覧 (MEセンター内回覧板) し、各々が閲覧・捺印する通知方法を実施している。 ・ 院内の各部門へはWebを利用した院内マニュアル統合管理システムでの医療機器の取扱説明書及び添付文書が閲覧及び印刷できる環境を構築している。また、医療機器情報提供ホームページより各種情報を提供する環境を構築している。 (放射線関係) ・ 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存ファイルしている。 ・ 放射線部情報システム (RIS) を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧ができる。	

